

平成31年度 きょうと農商工連携応援ファンド支援事業（10件）

代表	申請者名	所在地	テーマ名・内容
1	戸田 泰嘉	山城	◆規格外トマトを有効活用した、トマトと九条ネギの漬物の開発
	○(株)京の舞妓さん本舗 代表取締役 今井 洋之	京都 乙訓	久御山町でトマト本来の甘みを引き出しすトマト生産者と江戸時代からの伝統的な漬物製法にこだわる漬物製造業者が連携。トマトとハーブを使用したサラダ感覚で食べられる漬け物の商品開発を行う。
2	特定非営利活動法人京都発・竹・流域ネット 理事長 吉田 博次	京都 乙訓	◆タケノコカレーの商品開発と竹林景観と経営の再生
	○(株)アドプランツコーポレーション 代表取締役 増永 滋生	京都 乙訓	京都市大原野で竹林経営を行うNPO法人と自然再生や地域産物の企画・販売を行うコンサルティングが連携。大原野ブランドのタケノコを使ったカレー缶詰の商品開発を行う。
3	○(株)K・Kファーム 代表取締役 村山 寛	京都 乙訓	◆京都京北からの贈り物：京都らしい香りのコスメで世界に発信
	(株)ミュウセレクション 代表取締役 矢島 正博	京都 乙訓	京都市京北町でアロマオイル等も製造・販売する林業者と京都市南区の化粧品製造販売会社が連携。北山杉等、京都京北らしい香りのアロマを使った化粧品・芳香剤の開発を行う。
4	○オカダファーム 代表 岡田 真吾	山城	◆京粟生産・ブランディング事業
	(有)月ヶ瀬 代表取締役 平栗 由貴	京都 乙訓	山城南部地域で野菜栽培を中心に行う生産者と、京都市内で甘味喫茶を3店舗展開する飲食業者が連携。京都府内産の粟を新たに生産し、粟を使った粟ぜんざい、粟スイーツを開発を行う。
5	○てふてふふあーむ 代表 中島 三羊子	南丹	◆低糖質、水溶性食物繊維が豊富な菊芋を使った健康志向の商品開発
	ガーデンモリス 代表 阪本 初恵	南丹	亀岡市の菊芋生産農家と、同市でカフェを経営者が連携。低糖質、低カロリーの菊芋と希少糖を使った和菓子（干菓子、羊羹）を開発を行う。
6	野村 和己	丹後	◆高級魚介でつくる「京都・大人のオイル漬」の開発
	○天の酒喰食房 代表 竹山 昌弘	丹後	京丹后市網野町の漁業者と同市峰山町の飲食店と食品製造販売業者が連携。漁期が決められている蟹、アワビ、ナマコのオイル漬けの開発を行う。
7	本藤 靖	丹後	◆丹後の水産系未利用資源を活用した新たな地域ブランド商品の開発
	○ジャパンコラボホールディングス合同会社 代表社員 濱田 伸治	京都 乙訓	水揚げしても市場で値が付かず、廃棄等されていた未利用資源を活用し、魚肉を使ったソーセージや薫製品に加工し、新たな地域ブランドの商品開発を行う。
8	○森田 良彦	京都 乙訓	◆洛北の魅力発信！「上賀茂産」野菜パウダーを使った手土産スイーツの開発
	レ・フレール・ムトウ 代表 武藤 康司	京都 乙訓	京都市北区の野菜農家と京都市左京区でパン・菓子製造販売を行うカフェの経営者が連携。上賀茂産野菜パウダーを活用したスイーツの開発を行う。
9	京都やましろ農業協同組合 代表理事組合長 十川 洋美	山城	◆梅酒で使用済みの地元特産城州白の再利用による梅ビールの創造
	○(有)松屋 代表取締役 中川 憲一	山城	城陽市特産の青谷の梅でつくる梅酒製造過程で発生する絞りきった梅を活用して、梅のビールとして商品開発を行う。学生からのアイデアを募るなどデザイン性の高いものにし、地元の若者から大人まで楽しめる地元飲料として開発する。
	城陽酒造(株) 代表取締役社長 島本 稔太	山城	
10	京都向島農園 代表 中嶋 直己	京都 乙訓	◆京都産野菜の無塩レトルトカレーで、健康食生活を支援する
	○(株)健幸プラス 代表取締役 大濱 育恵	京都 乙訓	京都市向島の野菜農家と同市内で介護・配食サービスを行う事業者が連携。がん患者のリクエストから生まれた無塩調理のカレーを京都産の野菜を使い、無塩レトルトカレーとして商品開発を行う。